

こ　ど　も　た　ち

TEKNA

MJM 東京 2014 年 クリスマス号

聖書 イザヤ書42章2-4節

「彼は叫ぶことなく、声を上げることなく、その声を巷に聞こえしめない。傷める葦を折ることなく、ほの暗き灯心を消すことなく、誠実に義を創出する。」

「ターミナルを意識しつつ希望をもって生きる。」 森泉弘次

キリストと出会ってクリスチャンになったのは16歳のときですから、信仰歴は65年になります。昭和25年のクリスマスに日本基督教団王子東教会の藤城誠治牧師より洗礼を受けました。影絵で有名な藤城さんの叔父に当たる人だと後に知りました。大阪阿部野に本部のあった自由メソジスト教会の流れを汲む教会でした。新制中学（一期生）を卒業して赤羽の日本製紙株式会社に就職して9カ月たった頃です。

若いころを思い出すと、わたしを信仰に導いてくださった藤城牧師と谷兄（後に新宿の淀川小学校最後の校長になる）や白崎兄（後に地元北区豊島で歯科医を開業）など年長の教会員たち、小田島先生（後の青山学院女子短大教授）や森井先生（後の明治学院・院長）を始めとする聖学院高校時代の先生方のことが懐かしく思い出されます。中学時代から働きはじめ、高校進学も2年遅れでしたが、貧しい生活の中で一つだけぜいたくだったのは人間関係でした（サンテグジュペリ）。

中学時代にも良い出会いがありました。わたしのクラス担任でも教科担任でもなかったのに、3年間廊下でわたしと会うごとに、「森泉、勉強しているか。しっかりやれよ」と声をかけてくださった数学教師の山本先生。アルバイトでどれほど忙しくとも1日30分間勉強する習慣がついたのは山本先生のおかげです。高校時代の小田島先生と森井先生。小田島先生はドイツ語系の学問とキリスト教信仰の恩師、森井先生はフランス語圏の文学や哲学への導きの恩師です。小田島先生は遺著『御言葉の泉』（教文館）を残して十数年前に天に召されましたが、その精神は今も胸の中にその教えと共に生きています。

森井先生は御存命で、95歳以上でしょう。先日頂いたお葉書に「生きることが辛い仕事になってきました。しかし教え子の凄い仕事に接すると感動があります」という趣旨のことが記されていました。宗教改革者カルヴァンの世界的な研究者で、数年前伝記を発表されました。明治学院院長時代に、右翼の脅迫にも屈せず、15年戦争で軍国主義政権に利用されてアジア諸国への侵略を許し、甚大な破壊と2000万人以上の犠牲者を出し、祖国にも300万人以上の犠牲者を出した天皇制に対する根本的批判を目的とするシンポジウムや講演会を主催し続けた森井眞院長の勇氣は忘れられません。天皇崇拝を偶像崇拝として批判すると同時に日米その他の国々による「神の名を濫用する戦争」に対する根本的批判の書小山晃佑『富士山とシナイ山』を読んで森井先生が共感されたのは自然のことでした。

ターミナル・ケアという言葉があります。日本語にもなっています。死期が迫った重病の患者に対する心身両面にわたる治療、世話、配慮を意味する言葉でしょう。わたしはこの年になって初めて「ターミナル」という言葉の意味を実感しました。約3か月間、気管支炎が治らず、夜はぜんそく症状のような咳の激発で容易に眠れなくなりました。その間約3週間、御近所の（蚊の発生源の）雑草刈りで左脚が漆かぶれのようなひどい皮膚炎になり、苦しみました。正直生きた心地のしない3か月間でした。皮膚炎は教会奉仕で上京した長女が良い薬を近所の薬局でみつけてきて処置してくれ、快方に向かいました。しかし持病に近い気管支炎は容易に治まりませんでした。3年前前立腺肥大が悪化してガンが疑われ、組織検査まで受けてようやくガンでないとわかり、症状が薄らいで間もない時期のことでした。前立腺ガン・マーカーは依然として常人の6倍以上で、12月中に4回目の精密検査です。母は36、父は74歳で亡くなったので、子の自分もあまり長くは生きられないかもしれないという気持ちになりました。9月上旬の御嶽山噴火で亡くなった方に比較的若い人たちが多かったことも、「人間＝死すべきもの」という思いを一層強くしました。

平均寿命が長くなって100歳まで生きることが夢見る人もふえてきましたが、わたしは、許されれば85歳まで生きて、やりかけた使命の一部を果たせたら有難いと思っています。永遠の生命に与りたいと望むニコデモはイエスと出会って「人は上から（原文アノーセン）生まれなければ神の国を見ることはできない」（The peoples' Bible およびフランシスコ会訳新約聖書）と言われ、困惑しました。生まれ直さなければ神の国に与れないと誤解したのです。「上から」、すなわちキリストを通して神による新生の恵みを頂くことによって人は永遠の生命に与ることができる。限られた生を意識しつつ希望をもって生きられる。衰えた体力、気力、知力をふるいおこして今日すべき大事な些事に取り組む。こうした信仰が少年時代に与えられ、今日まで続けてこられたことに感謝せずにいられません。

ベストセラーを読むことは努めて避けてきましたが、家庭医のM先生が、月一回の定期診察で、「今日の処方はこの本を読むことです」と『蝸（ひぐらし）の記』という時代小説を貸してくれました。多忙の時でしたので速読しかできず、主人公の名前すら覚えていませんが、ある重大な責任を問われて、主君から（使命である主家の歴史を書き終わるはずの）10年後に切腹することを命じられた男がどう生きたかを主題とする作品です。

定義（Man is the Mortal.）上明日の命すらわからぬ人間です。限られた生、常住終末期の生（the terminal life）を生きる者として、わたしもせめて85歳までは生きることが許されると信じて、『ヘッセルから学ぶべき教え』と『聖書の光で読む良寛の諸作』の二書を著したいと願っています。

祈り

待望のクリスマスが近づきました。感謝です。神よ、あなたはくりかえし御旨に背いてあなたを悲しませ、失望させているわたしども人間を罪の淵より救い出し、復活の生に与らせるために、御独り子主イエス・キリストを、2014年前地上に遣わされました。人間ひとりひとは神から賜物（タラント）を与えられて生まれてくる。寿命の長短にかかわらず、自分の非力非才に悲観せず信頼と希望をもって少しでもその賜物を、使命をはたしていくことが人間の生甲斐であり、幸福であるということをあなたは主イエスの教えと生死を通して、また被造物である自然を通して教えておられます。感謝です。主イエスの御名によってアーメン。

この一年感謝をこめて、2015年も心あたたまる年になりますように

お祈りしています

Merry Christmas to All

MJM 東京